

## 2024 年度の担当教授と講義内容

### ● 博士前期課程

授業名称・ 時限	担当者	授業内容
演習 IV (月・5)	湯沢英彦	20世紀後半の文学における「記憶」の主題についてあつかう。 春学期は、Marguerite Duras (1914-1996)における記憶と忘却の問題をあつかう。 <i>De mémoire et d'oubli : Marguerite Duras</i> という論集から、 <i>Hiroshima mon amour</i> における「忘却の記憶」と扱った論考と、「歴史」の理解不可能性を扱った論考を読む。Duras自身のテキストは、春学期にポイントを読む。 秋学期は、フォークナー、ヨーゼフ・ロート、ペレック、ゼーバルトラを比較文学的な視点から扱った、Raphaëlle Guidée, <i>Mémoires de l'oubli</i> の序文「墓から出る」および第1部「死者たちの生」を読んでいく。
演習 V (火・2)	慎改康之	Jean-Paul Sartre, <i>Réflexions sur la question juive</i> を講読し、ユダヤ人問題に関するサルトルの考え方について考察する。人種主義問題に関する新たな考え方を身に着けることを目標とする。
演習 VI (木・2)	畠山達	ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』をフランス語で読む。授業で読む範囲は指定するので、訳とレジュメを毎回準備して、それをもとにプレゼンをしてもらう。フランス語の意味を一字一句、丁寧に読みながら少しでも内容を理解できるようにする。
特殊研究 IA (火・3)	杉本圭子	スタンダールの『赤と黒』の抜粋を原文で読みながら、文学批評の方法の基礎を学ぶ。19世紀当時の作品の受容、20世紀の批評家による批評（アルベール・ティボーデ、ジャン・プレヴォー…）、ヌーヴェル・クリティークによる批評（ジュネット、ジャン・ピエール・リシャール、ジャン・スタロバンスキー…）を順次抜粋で読み、作品批評の流れをつかむ。
特殊研究 IB (水・1)	梅澤礼	Étienne De Greeff, <i>L'homme et son juge</i> (1962)を読む。フランス語で書かれた専門外の難解な専門書を読むことができるようになること、ド・グレーフの思想を理解することができるようになることを目標とする。
特殊研究 IIA (木・5)	大池惣太郎	ピエール・ルジャンドルの『真理の帝国』を講読する。西欧文明は一見科学的、合理的、形式的ルールの集積でできているように見える。しかし同書は、そこに暗黙知に基づく「ドグマ的」体系（乱暴に言えば宗教性）が隠然と働いていると指摘する。西欧文明を批判的に捉え返しながら、人間の信と知の関係について再考を促す過激な書。難著だが、普遍主義を基礎付ける文化／文明、宗教／科学、権威／権力といった根本対概念を理解する上で、貴重な示唆に富む。毎回講読範囲を読んだ上で参加。授業はディスカッションメイン。

特殊研究 IIB (水・1)	マリ・ノ エル・ポー ヴィウ	1960年代～現代に渡って芥川龍之介の作品のフランス語訳を原文と比較して、翻訳という行為を考える。翻訳について理解を深めること、20世紀初めの日本文学について知識を身につけること、文学理論(短編小説の方法)について知識を身につけること、日本語とフランス語の違いを考えることを目標とする。
特殊研究 IIIB (木・1)	鈴木和彦	ロマン主義時代に活躍した詩人Ulric Guttinguerの作品を読む。マイナーな詩人だが、彼の詩および小説をひもとくことはフランス・ロマン主義を理解する一助となろう。
特殊研究 VIAB (金・3)	ジャック・ レヴィ	物語のフィクション性や文体の問題を対象にしたいくつかの論文を丁寧に読み、同時に、近年、言語学、文学理論や文芸批評においてどのような傾向がみられるのか、幅広く紹介していく。フランス語で書かれた論文を読み解く力を身につけること、フランス語で行われる講義を理解すること、フランス語での発表方法や研究計画の書き方に力をつけることを目指す。
留学準備演 習 A (水・2)	マリ = ノ エル・ポー ヴィウ	フランスの大学で使われている「ディセルタション」(dissertation)、「コマンテール」(commentaire linéaire)という小論文系練習問題・試験問題の書き方、およびフランス語で文学理論を学ぶ。受講生の研究課題に合わせて扱う課題を決める。